

COC Monthly News Letter

COC: Center of Community (地(知)の拠点)

Yamanashi Prefectural University

山梨県立大学の地域貢献活動を毎月1回お届けします。

2015年9月号

Vol.

16



グローバルな知の拠点となる大学
 未来の実践的担い手を育てる大学
 地域に開かれ地域と向き合う大学

Topics

最新のニュース・話題など大学での出来事をお伝えします。

◇平成27年度地域連絡調整会議

8月12日(水) 13:30～飯田キャンパスにて、「地(知)の拠点整備事業」に係る平成27年度地域連絡調整会議を行いました。担当教員に加え、連携自治体の山梨県、富士川町、道志村、甲州市、今回は甲州市にインターンシップに来ている学生7名が参加しました。

この会議では、各自治体の地方創生への取組状況等について情報交換を行うとともに、本学からは山梨を活性化していくための具体的な方策について提案を行いました。

◇真夏の学習会

8月18日(火) 13:30～16:00まで、本学飯田キャンパスC202教室において、内田洋行教育総合研究所 平野智紀先生をお招きし、「全国学力・学習状況調査」データをどう読み解くかをテーマに、15名の県内の先生方が暑い夏に熱く学びました。山梨県内の小中学生の学力を上げるにはどうすればよいのかグループワークを通して答えを探りました。

◇甲州市魅力発信事業 甲州市のイメージ調査

甲州市の魅力を発信する無料情報誌作成の取材のため、6名の学生で7月11日(土)にぶどうの丘で主に観光客を対象としたイメージ調査を実施しました。当日、参加した本学国際政策学部2年生の甲州らいふ♪つたえ隊、望月くんから以下の感想を頂きました。

「ぶどうの丘やぶどう畑でアンケート取材をする中で、東京はもちろん、栃木など少し距離のある場所から観光に来た方が多くいることに気づきました。そのような遠い場所からでも甲州には人を惹きつける魅力があるということを実感した一日でした。今後はアンケートをまとめ、記事にしていきます。より甲州市を知ってもらい、また甲州市を魅力的に思ってもらいように今後より一層頑張っていきたいです。今回協力してくださったぶどうの丘さん、本当にありがとうございました。 国際政策学部2年 望月勝太

 8月16日(日)には、えんさん朝市会場において、甲州市に住んでいる市民の方を対象に甲州市のイメージ調査を実施致しました。当日、参加した本学国際政策学部4年生の甲州らいふ♪つたえ隊、岡野さんから以下の感想を頂きました。

目標50人!!を目指してスタートした本日の市民向けアンケート調査。お盆中ということもあり甲州市民の姿は少なく、調査は少々難航してしまいました。数名にしかアンケートできませんでしたが、その中で分かったのは、「甲州市と言えばぶどう、ワイン、だけではない」「実際に住んでいるからこそ感じられる魅力がある」ということです。「甲州市大好き。すごく住みやすい街だよ。」という80歳代のおばあちゃん言葉には説得力を感じるばかりでした。カメラの撮影技術は着々と向上中です！先月の編集会議での撮影指導の甲斐があったのでしょうか！今後の記事作成にも力を入れて行きたいです！！国際政策学部4年 岡野佳歩

イベント情報

気になる話題の情報やためになる講習会や研修会をご紹介します。

◇「語る方言から見せる方言へ」～地域語の有効活用を考える～

日時：10月18日(日) 13:30～15:00

場所：山梨県立大学 飯田キャンパス A館6階 サテライト教室 *参加料無料/申込不要

(〒400-0035 甲州市飯田5-11-1)

講師：大橋敦夫(上田女子短期大学 総合文化学科教授)

連絡先：地域研究交流センター(学務課)

TEL 055-224-5260 Mail ucre-accept@yamanashi-ken.ac.jp

今月のプロジェクト 大学が自信を持っておすすめするプロジェクトのご案内。

<地場産業活性化プロジェクト>

地場産業活性化プロジェクトというネーミングで、伝統産業や後述のクラフト作家の活動を介して地域活性化にいくらかでも関与出来ればとの思いで取り組んでいます。地域的には山梨県内でも比較的、観光資源が少ないとされてきた峡南地域を主なフィールドとしています。あまり知られていないかも知れませんが、峡南地域には、陶磁、硯、木工、ガラス、貴石、草木染、象牙、能面、和紙、パッチワークなどのクラフト作家が点在し、それぞれの工房において創作活動を進め、作品を首都圏・関西・静岡等で発表しています。このプロジェクトの目標は2つあります。まずは峡南地域を中心に県内のクラフト作家をひとつの地域資源として捉え、作品の持つ魅力や工房のある山梨の優れた自然環境を、大学として県民や首都圏在住者に発信し、工房やその周辺を拠点として作家や地域との交流活動を増やしていくことです。もう一つは、手漉和紙、手彫印章、硯等の峡南地域の伝統産業と上記のクラフト作家とのコラボレーションを進めて、伝統産業の製品に新たな付加価値を創出することです。

本年3月中旬から約2か月間、山梨県からご支援をいただき、山梨県防災新館1階のやまなしプラザで、峡南地域クラフト・伝統工芸作品展示会を開催しました。作家20名と6つの伝統産業の作品を展示し、多数の方々にご来場くださいました。こうした展示会を定期的なものにしていくとともに、今後、首都圏等県外のクラフト愛好家等が、まとまって峡南地域等に来て、作家や地域住民と交流する機会を設けることを検討したいと考えています。

(写真は展示会のポスターです)

(国際政策学部 教授 波木井 昇)



担当教員紹介 個性派揃いの優秀な教員の意外な素顔を紹介します。

<国際政策学部・総合政策学科 教授 波木井 昇>

甲府市の出身です。父の勤務の関係での小学校5年から中学2年までの東京生活を除き、高校まで山梨県内で育ちました(3年間の大月を除いてすべて甲府)。大学卒業後、当時の三井銀行に就職し、7年間のニューヨーク勤務を含め26年間、銀行におりました。調査部門に3回配属になり、最初の頃は、海外調査という米欧が主流でしたが、銀行を辞める頃(2001年)には、アジア地域の調査に相当力を入れるようになっていました。山梨に戻った最初の4年間は、財団法人・山梨総合研究所で地域課題や対策に係る調査業務を行い、2005年の開学から本学に勤務しています。

常日頃、地域の活性化にとって大切なことは、まず企業・社会が元気になることだと思っています。そのためには、業種を問わず、人口増加や市場拡大がみられるアジアに目をむけることが必要で、色々な機会をとらえて、企業経営者の皆様に対しアジア展開を言い続けています。毎年夏に、県内の企業経営者・行政マン・研究者等の方々数名とアジアの1か国を訪問し、その国の経済情勢や進出日系企業・県内企業の活動状況を調査し、帰国後、研究会や企業人との会合で報告し、経営の参考にさせていただいています。残念ながら、ここ数年、アジア展開に慎重姿勢になっているように感じています。大学教員としては、企業の情報ニーズに対する感度を高め、今、どういう情報が求められているかを見極め、タイムリーでより詳しい情報発信を心掛けたいと思っています。(左の写真はインドでのものです)



国際政策学部 波木井昇教授

編集後記

ここ数日、あの猛暑から開放され、夜は虫の声も聞こえるようになりました。秋が刻々とせまってくる様子を体で感じる事ができます。夏の疲れを解消するには、運動で血行をよくする、ぬるめのお湯でじっくり入浴し、体をマッサージすると良いそうです。ぜひ試してみてくださいね。

編集発行: 公立大学法人 山梨県立大学 地域戦略総合センター

〒400-0035 山梨県甲府市飯田5-11-1 TEL:055-225-5412 FAX:055-225-1150

ポータルサイトURL <http://region.yamanashi-ken.ac.jp/>

購読申し込みURL <http://region.yamanashi-ken.ac.jp/newsletter>

文部科学省

地(知)の拠点



山梨県立大学
Yamanashi University